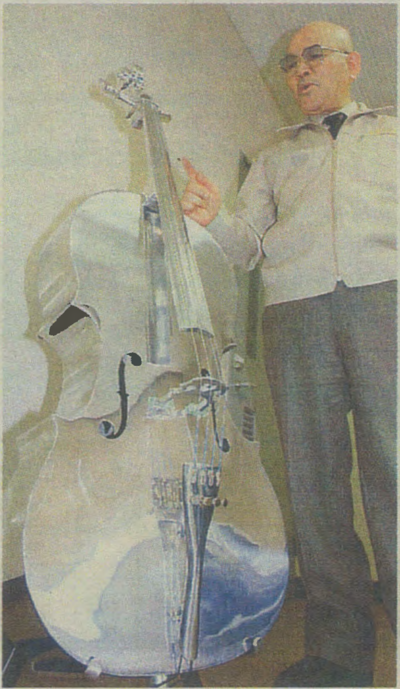
新幹線の業 チェロを生む

山下工業所

素材に車両用アルミ合金



アルミ合金で作ったチェロを説明する山下社長

新幹線の「顔」となる先頭車両を手作業で製作している板金加工業の山下工業所（下松市）が、世界最古といわれるチェロ「ストラディ・バリウス」の設計図を基に、アルミ合金製のチェロを作った。鋼板をハンマーでたたいて複雑な流線形をつくる「打ち出し加工技術」を応用。十五日から東京である「ものづくり展」に出品する。

チェロは高さ約百三十ｾﾝﾁ、幅六十ｾﾝﾁで、素材は新幹線の先頭車両と同じアルミ合金。一五三八年製の「ストラディ・バリウス」の設計図の写しを米国の国立音楽博物館から購入し、ペグやブリッジなど細かい部品まで忠実に再現した。

技術者五人が、約一週間で仕上げた。最も複雑な曲線があるボディーを担当した創業者の山下清登社長(72)は「人間の手でしか作り出せない繊細な技術をみてほしい」とＰＲしていた。

今後は、音響にもこだわって改良し、世界的チェリストのヨーヨー・マ氏への寄贈も考えているという。

同社は、新幹線の初代モデルから先頭車両を製作した技術が評価され、昨年、経済産業省の「ものづくり日本大賞特別賞」を受賞した。

（鴻池尚）